

スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム 会員インタビュー

スマート・オコメ・チェーンコンソーシアムの会員様にお話をお伺いする会員インタビュー。

SBIトレーサビリティ株式会社代表取締役の輪島智仁様と開発チームの皆様にお話を伺いました。

Q 貴社の取組や特色について教えてください。

SBIホールディングス株式会社の100%子会社として2021年4月に設立しました。現在、ブロックチェーンを活用したトレーサビリティサービスを展開しています。

一度記録した情報を改ざんできないというブロックチェーンの技術特性を活用し、情報の非対称性・売り手と買い手の情報の格差を解消し、弊社のプラットフォームで真正性の高いサービスを共有できるサービスの提供をしております。



SBIトレーサビリティ株式会社
代表取締役 輪島 智仁氏

このサービスで、サプライチェーンの透明性やアカウントビリティ（説明責任）の実現、ブランドの信頼性を深める、模倣品の不正流通や正規品の不正流通の抑止などの問題解決になるのではと考えています。

海外輸出においては、バイヤーと取引するのに真正性の高い情報が重要で、信頼、信用になるツールを求めているという声を聞きます。

例えば、輸出を行っている茨城県の百笑市場さんからは、輸出国のチャネルを増やしていきたいとのことから、その国で禁止されている農薬の不使用証明などの課題があると聞いており、ブロックチェーンを使って対応できたらと考えています。

また、生産者の皆さんは、手塩に掛けて生産された自分のお米に自信を持っておられるが、出荷先や消費者がどう感じているかのフィードバックがなかなか得られておらず、それが得られるとモチベーションのアップに繋がるといった話もお聞きしました。

そういったお声から、情報のやり取りが出来ないかと考え、産地や農業者の取組に関する情報を可視化して、消費者に提供することで、生産者がお米にかける想いを知ってもらいたいと思っています。

私たちが開発したサービスでは、認証情報をブロックチェーンに書き込むことで、より透明性の高い認証制度であることや、より真正性の高い情報で品質や生産方法等の特性が評価されている食品であることをしっかり証明していく仕組みができないかに挑戦しています。

ブロックチェーンという技術を活かすためには書き込まれる情報の真正性をどのように担保できるか、とても重要な課題です。

私たちは第三者機関などで認証された情報が記録される仕組みの実現こそ、ブロックチェーン上に記録される情報全体の真正性を高めることができる仕組みだと考えています。



SHIMENAWA



サービス名「SHIMENAWA」は、お米から始めたということ、古来から「しめ縄」には神の領域と現世とを分ける結界としての役割があることから命名。

情報の改ざんが行われないように守ることで、作り手、売り手のブランドを守り、良い商品を消費者に届けたい。また持続可能な社会に貢献する循環を家紋のような標で表現、デザインされたとのこと。

もう一つ私たちのシステムは、Corda（コルダ）というブロックチェーン基盤を採用しており、仮想通貨ビットコインの残高管理にも採用されているUTXOという優れた技術で「現物とデジタル情報の紐付け」をより強固なものにすることを実現しています。

これにより私たちのトレーサビリティサービスでは、例えば、海外のスーパーで5kgの米袋を手にした消費者に、日本で生産・出荷されたお米の1,000kg中の5kgが間違いなく手元にあることが証明できます。

その他に正規流通品かどうかの判定、お米の産地・商品情報や生産者の思い、生産のこだわりなど、消費者などにお届けしたい情報を画像や動画にさせていただくことで可視化できるようになっています。

これらのシステムは農林水産省の「品目団体輸出力強化支援事業」でも活用され、上海での日本産米プロモーション事業が昨年12月から開始されました。

上海のコンビニチェーン1,150店舗で、日本産のお米を使用したおにぎり最大約24万個の販売に際し、おにぎりパッケージや店頭のPOPに貼付したQRコードを消費者がスキャンすることで、出荷から精米の工程や生産者のストーリーが見えるようになっており、産地の素敵な風景や観光スポットもアプリから見られるようになっており、おにぎりから日本、産地の魅力を伝えることで、これをインバウンドにつなげたいとも考えています。

また、国際規格のFSSC22000を取得した精米加工施設などの証明書も掲載し、日本産米の品質情報を分かりやすく中国の消費者に伝えることも出来ます。

Q コンソーシアム会員に向けたメッセージをお願いします。

私たちのサービス開発は、ブロックチェーンに強い（株）digglue、中国に強いIT FORCE（株）とタッグを組み、ユーザーが必要な最小単位の機能を、ミニマム、かつクイックに開発、実装し、ユーザー・フィードバックから、常に改善を繰り返すアジャイル開発で進めています。

そのため、より多くのフィードバックをいただくことが、お米業界の活性化に貢献させていただけるサービス創出につながれると考えています。

是非、お気軽にお声掛けいただけますと幸いです。



SHIMENAWAのアプリ画面



開発に携わるチームの皆さん